



てんかんの患者は全国に約100万人いると推定されている。その電話相談から、患者と医師が治療目標を共有する必要性が浮かび上がった。

2011年3月の東日本大震災では多くのてんかん患者が被災した。被災した患者らを対象に、薬の入手方法などの相談に看護師や医師が応じる「てんかん災害支援ホットライン」が国立病院機構静岡てんかん・

神経医療センター(静岡市葵区)で始まった。

被災者だけでなく、全国からも相談が相次いだため、同センターは11年7月、通常の治療や生活の悩みなどに応える全般的なてんかんホットラインに発展させた。今も全国から毎月50〜75件の相談が寄せられている。

同センターの小出泰道医師は1年間のホットラインの相談757件を集計、分

析した。内容は診断治療が約半分を占め、最多。受診が続ぎ、就労や学業の相談もあった。

相談内容から、担当医は患者と話し合う時間が不足している様子がうかがえた。小出医師は「患者さんも積極的にコミュニケーションを取ろうとしている」とみる。

てんかんはその人に適した薬をきちんと服用していれば、多くの場合、発作のコントロールは可能だ。小出医師は「進学や就職、結婚、運転免許取得などライフイベントを考えながら、治療の将来像や目標を担当

てんかん電話相談分析

治療目標の共有必要

医と話し合い、共有しておくことが重要」と提言する。
神戸市須磨区の会社員で患者の堀口香都さん(46)も「てんかんだから仕方ない」とあきらめるのではなく、出ている疑問を医師に伝えよう、「こころ」当事者に助言する。

てんかん相談ホットライン

☎054-246-4618

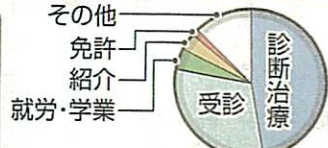
ニーズの変化

- 東日本大震災被災地
薬の入手
- 通常の生活被災地以外
治療全般、生活相談など

2011年3月～ てんかん災害支援ホットライン

7月～ てんかん(全般の)ホットライン

相談内容



※11年7月～12年6月、静岡てんかん・神経医療センターによる

ホットラインは☎054(246)4618。午前9時～午後10時に対応。Eメール support@szec.hosp.go.jp 受付は24時間。